

クリスマスといのち

お告げを受けたマリア様が御子の誕生をどんな思いで待っておられたか、想像してみたいと思います。貧しさの中でできるだけ準備をし、胸躍らせてその時を待っておられたに違いありません。

ところが突然、人口調査の勅令です。登録のためには、身重であつても遠いベトレヘムまで行かなければならないのです。マリア様どんなに驚き、どんなに困り、どんなに祈られたことでしょうか。「神様、あなたの御子のためです。何とかしてください」と。しかし、神様からのお返事はありません。神様が何かをしてくださらないければ、皇帝の勅令には従うほかはないのです。

幾日か、ロバの背に揺られてやつの思いでベトレヘムに着いてみれば、今度は部屋がありません。子どもが生まれると言つのに、部屋さえも空けてもらえない。こんなことがあるのでしょうか。でも、そうだったのです。仕方なく、やつのこと捜しあてたのは馬小屋、家畜を入れる洞窟でした。マリア様はそんな惨めさの中で御子の誕生を待たなければならなかったのです。もしかすると、「神様は、わたしたちのことをお忘れに

なつたのではないだろうか」という思いがマリア様の脳裏を何度もよぎつたことでしょうか。お生まれになつた御子は、かいばおけに寝かされなければならなかつたのです。

ところが、そこに羊飼いがやつて来て不思議な話をします。聖書はこう語っています。「主のみ使いが羊飼いたちのそばに立ち、主の栄光が羊飼いを覆い照らしたので、ひどく恐れた。み使いは言った。『恐れることはない。わたしは、すべての民に及ぶ大きな喜びのおとづれをあなたがたに告げる。きょう、ダビヤの町に、あなたがたのために、救い主がお生まれになつた。このかたこそ主メシアである。あなた

がたは、うぶぎにくるまれて、かいばおけに寝ている乳飲み子を見るであろう。これがしるしである。』すると、突然、天の大軍が加わり、『いと高き天においては神に栄光、地においてはみ心にかたう人々に平安』と神を賛美した」と。

「羊飼いが語つたことを聞いたものは皆、不思議に思った。それは当然でしょう。しかし、マリアはこれらのことをことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。マリア様には、これほどはつきりした神様からのご返事はなかつたと思

その三日後、クリスマスの喜びの中で、「幼子殉教者」を記念します。「ヘロデは人を遣わし、博士たちから確かめた時に基づいて計算し、ベツレヘムとその地方全体にいる二歳以下の男の子を、ことごとく殺させた」。イエス様の身代わりになつて幼子たちのいのちは奪われました。しかし、父なる神は絶対にお見捨てになつてはいないことを、教会はこの祝日をおして教えたのだと思います。

あなたがたは、うぶぎにくるまれて、かいばおけに寝ている乳飲み子を見るであろう。これがしるしである。』すると、突然、天の大軍が加わり、『いと高き天においては神に栄光、地においてはみ心にかたう人々に平安』と神を賛美した」と。

父である神は「ご自分の最愛の御子を、か弱い乙女の手に乗せられました。マリア様がこの世の悪の前に必死に守りとうした御子のいのちも、遂には十字架にかけられ、抹殺されたのです。しかし、父なる神は決してお見捨てになつてはい

なかつた、これが復活の教えでしょう。これはまた、すべてのいのちについて言えることなのです。

残念なことに日本でも毎年、数え切れない胎児のいのちが消されています。そんなことがなくなるよう、わたしたちもこの世の暴力、悪の力と戦わなければなりません。しかし、教会が幼子殉教者を記念し、祝つように、御父の愛のうちに

「羊飼いが語つたことを聞いたものは皆、不思議に思った。それは当然でしょう。しかし、マリアはこれらのことをことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。マリア

救い主キリストのご誕生を祝う教会は、

救い主キリストのご誕生を祝う教会は、

救い主キリストのご誕生を祝う教会は、

救い主キリストのご誕生を祝う教会は、

救い主キリストのご誕生を祝う教会は、

救い主キリストのご誕生を祝う教会は、

救い主キリストのご誕生を祝う教会は、



小さないのちを宿し、経済的な理由のため中絶を考へる女性に「恐れることはない」という言葉を返し、小さないのちを守る力を与えて下さいますように。

フランシスコ・佐藤 敬一
(新潟教区司教)

もう一人の子どものために

ピンク

電気をつけて、バイアルの底の丸をじっと見つめました。電気の明かりと、カーテンからこぼれる昼下がりの陽光の中で見ても、結果に変わりはありません。ピンク。濃く深い、まぎれもないピンクです。

トイレから出て来た私を夫のバリーは問いかけるような眼差しで見上げました。

「ピンクだったわ」私は動揺したまま告げました。「できちゃった。女の子か男の子か分からないけれど」夫は少し呆気にとられた様子でしたが、冷静にうなずきました。

夫がコンピュータの前に戻るのを待って、私は検査キットを解体しました。そしてドアを閉め、思いっきり泣きました。

一番最初に家で妊娠テストをした時のことを思い出さずにはいられませんでした。あの時は、クリスマスの朝にツリーに駆け寄るわが子たちを思い描きつつ、夫も私も期待に胸ふくらませてバイアルに忍び寄ったのです。互いににんまり笑い合い、彼が

すぐにお医者さんの予約を取ってくれたほど、私たちは有頂天でした。

今、涙にくれながらも、私は最初の妊娠を知った時と同じように喜べない自分に罪悪感を感じていました。というのも、今回は待望の第一子でも、その次でもそのまた次でもなく、予定外の第四子だったからです。

その後、夫と私は子どもを話を話し合いました。最初は二人とも、神様のお考えがあつて、私たちに新たな子どもが授けられたのだと良いことばかりを話していました。けれども、そんな弁護体勢がもろくも崩れると、替わりに不安と疑念が噴き出してきました。

「人は、きつと私たちのことをばかだと思ってしまうよ。もう一人子どもが増えれば、家計だって耐えられるかどうか...」私はほとんど絶望的な気持ちで夫に言いました。

「それに、私はずっと育児から解放されるのを待っていたのよ」ともつけ加えました。

頭の中で起こりうる将来を思い描くうちに、私はうるたえました。「主よ、これが本当に私たちへのあなたのご要望なのですか?」人のいのちの神聖さと子どもの価値への私の信念は、真にゆるぎないものでした。そして、自分の狼狽ぶりが恥ずかしくなりました。

しかし、どんなに努力しても、さまざまな疑念との闘いはそれからも続きました。そしてついに私は神に訴えました。「主よ、これは明らかにあなたが望みになっていることです。もしそうでなかったら、あなたはこんなことが起こらないよう防いで下さったはずですから。これまでの私をお許し下さい。この子があなたからの贈り物であつて、罰でないことはわかっています。

もしできれば、四番目の子どもを授かるわけを教えてください。」その後、聖書や友人たちからの助言によって、私はゆっくりと、なぜ自分が、そして世の中が、もう一人子どもを持たなければならぬか、納得のいく確かな答えを見出したのです。

子どもたちは私たちの遺産

詩篇第一二七：3 に、「見よ、子らは主の贈り物、胎の実は主の報いである。」とあります。贈り物とは子孫に引き継がれる貴重品類のことです。

そして、神は、私たちにさらなる重責を負わせておられるのではないと私は気づきました。それどころか、神自身が大切にしている、価値のある宝を私たちに与えてくださっているのわかりました。私たちが最も価値のある所持品を子孫に残して、彼らの生活を豊かにしようとするように、神もまた私たちに遺産を残して下さいなのです。それは責任を伴いますが、価値あるものはすべて責任あるケアが必要なのです。

子どもたちは私たちへの祝福

神は、子どもたちが私たちへの祝福であることをはっきりと示しておられます。そのことを

私たちは無視しがちですが、それは現実の社会では、大家族を軽視する傾向があるからで、聖書の歴史の中では、神は家族を増やすことで、祖先たちに祝福を与えておられます。実際、それは土地や経済的な富よりも高級な神からの報いなのです。こうして、四番目の子どもを神の喜びの証と考えるようになってから、私自身の気持ちも変わり始めました。

よく考えてみると、子どもの笑顔や抱擁、キスなどから得る喜びは、純粹に神からの贈り物なのです。

子どもは私たちの盾

詩篇第一二七：4 で、子どもはつわもの手にある矢にたとえられています。私たちは、自分たちこそが子どもの保護者だと思いがちですが、実は子どもたちがの方が私たちが忙しすぎる社会から守ってくれる盾となってくれているのです。子どもは私たちにとって心の避難所であり、子どもによって慰めを得たり、物事を考えたりするのです。私たちは家庭の中で、受け入れられているという安心感、心の安らぎを得るのです。

子どもが私のひざに乗って頼

(3 ページへ)



私たちの心に、もう一人の子どもを受け入れる広さを与えて下さいますように

あなたにできること

あなたにできることで一番大切なことは、個人として深く関わっていくことです。行動しなければ、何も変わりません。

A. 教育

まず、あなた自身が勉強をすることです。人間のいのちについてのあらゆる問題を解説している本がたくさん出ています。より安価な小冊子やパンフレットなどもあります。それ以外の資料も、プロ・ライフ事務所で購入できます。自分が勉強できたら、次は周囲の人々を教育していきましょう。

B. 手紙を書く

住んでいる地域や地方選出の議員へ、さらには国会議員へ、あるいはラジオ局やテレビ局へ、またあなたが影響を及ぼしたいと考える人々へ、とにかく手紙を書きましょう。新聞や宗教関係の刊行物にも手紙を出しましょう。今、話題にのぼっている中絶や安楽死や新生児殺しについて行政の考えをどう改めさせるか伝えましょう。

C. ボランティア

地域のボランティアに参加しましょう。タイプしたり、ニュースレターを封筒に入れたり、記事を書いたり校正したり、新しい会員を勧誘したり、講演したり、いろいろな仕事があります。あなたは何ができますか？

D. 献金

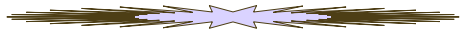
時間はないけれど、お金なら出せるという人もいます。この運動は、胎児の生命を守りたいと考える人々の寄付に100%願っています。献金することができるなら、そうして下さい。ただし、あなたのお金を正しく使ってくれるグループに出資することを忘れずに。我々プロ・ライフ・グループがもっとしっかりした経済基盤を確保しなければ、何も変えることはできません。なぜなら、我々は世間の中絶支持組織を教育し、変革させようとしているのですから。

E. 祈り

全てが自分の祈りにかかっているという覚悟で祈りましょう。神様が私たちを導き、運動をやりぬく力と勇気を与えて下さるよう。

F. 結論

「必ず来る最後の審判の時、恐れ多いその瞬間は、すさまじいほどの孤独の瞬間となるだろうと私はよく考えます」と、フルトン・シーン司教は書いています。誰も擁護してくれる者はなく、神の前にたった一人です。想像を絶した恐怖があなたの魂を引き裂きます。けれども、中絶反対者はその場においても一人きりではないと私は思います。おそらく、この世では聞いたことのない声が天から美しく、はっきりと響いてきて、プロ・ライフ運動に関わった人々を弁護してくれることでしょう。その声が、神に「その人をお許し下さい、私達を愛してくれたのですから」と言うでしょう。そして神はあなたを見て「成功しましたか？」ではなく「やってみよう」と試みませんか？」とお尋ねになるでしょう。



(2ページから)

にキスし、「ママ、大好き」と言うだけで、それまで頭を悩ましていた問題が遠のいていきます。子どもは、気づいてすらいらない生活の中の空虚を、見事に埋めてくれるのです。

子どもは私たちの放つ矢

正確な方向に狙いを定めた矢

は、正確に命中します。それと同様に、正しくしつけられた子どもは社会に出て消えることのない足跡を残すものです。何も子どもを政治家にしたいという野望があるわけではありませんが、その子どもなりの得意分野で社会に影響を及ぼすことができれば良いと思っています。それが、つまりは子どもを通して私が社会に足跡を残すことになるのです。

子どもが多いほど神の祝福も多い

家族が増えることをマイナスに考えることは簡単なものです。新しい子どもが、他の子に必要な親の関心やお金を取ってしまうと考えがちだからです。けれども、詩篇第一二七：5で、「幸せなのはその矢で、矢筒を満たした者。」と約束されています。子どもが増えれば家族は貧しくなるのではなく、かえって豊か

になるのです。

子どもがたくさんいる家庭では、特に兄弟同士の関係が充実します。兄弟姉妹で互いに支え合い、そこに親にはできない兄弟ならではのコミュニケーションが育つのです。そうして築かれた不変の絆は、単なる友情よりも強く、永く続くものです。今では、年齢や家族の規模の問題から、私は友人たちに「この

子が最後になると思うわ」と言っています。が、さらにもう一人子どもが増えたら…、などと考えると、わくわくしてきます。そこでいつも「神のみぞ知る、だけどね」と付け足しておくのです。

キーマ・ジュード



危険状態の妊娠へのカウンセリング

健康に不安を抱いたり中絶へのプレッシャーを感じている妊婦には最善のケアと愛情のこもった支えが必要である。多くの場合、妊娠はそもそも望まれたものだったが、何かが悲劇的に狂ってしまったのである。妊娠中に健康上の問題が出てくると、中絶が一つの選択肢としてあげられるようになる。健康上の理由から危険な妊娠に直面している母親あるいはおなかの中の子どもに対するカウンセリングとケアは、医学の分野において非常に重大なチャレンジと位置づけられている。

いいのかと必要以上に悩む家族がいる。悲しいことに、中には医学的過程において適切な手段だということ、出産まで死んだ赤ん坊を子宮の中にそのままにしておかなければならない場合もある。赤ん坊が死んでいれば、当然薬による中絶とはみなされず、道徳的にも認められることになる。

出産前の診断の進歩によって、妊娠している女性や夫婦が自分たちの子どもに遺伝学上の問題や胎児の異常があるかどうかを医者から聞くことは珍しいことではなくなった。そのようなショッキングな知らせを聞いて不安と悲しみに苦悩する人々は、カウンセリングに頼ることが多

い。カウンセリングにあたっては、まず第一に赤ん坊にまだいのちがあるかどうかを確認することが必要である。中には赤ん坊が子宮の中で死んだらどうしたら

女性の最悪の恐怖はかなり拭い去られることだろう。このような状況にあると、恐怖心は中絶を選択する原動力になってしま

ガンや糖尿病などの深刻な健康上の問題を抱える妊婦は、多くの場合中絶を考える。こ

胎児の異常が発見されたため

おなかの中の子どものいのちや健康に妥協することなく、

その後は非常に深く厳しい安堵、

本人たちにとって効果的な治療法があるということをはほとんど

悲しみそして後悔が襲う。子ども

の女性が気づかないでいる。

母体の治療のためにおなかの

中の子どものいのちを危うくする

に起きているかもしれないが、

二重の効果の主義をきちんと説明

中絶を選んだということだけで、

その苦痛は増幅されるのである。こ

ヨハネ・パウロ二世教皇はク

ると述べました。

ローン人間作りを非難しまし

ローマ・カトリック教会の

た。聖ピーターズ広場での、イ

「いのちの日」に、教皇は部屋の

タリアの大学教授グループへの

窓から、人間の生命は「その尊

演説で、教皇は彼らの最近の

「クローン人間作りに対する断

念の瞬間から守られなければならない」と言いました。教皇は以

教皇、人間のクローン作りを非難

前にもクローン人間作りに関する

中絶反対者インフォネット



女性の死を招いているナイジェリアの中絶

ベロおばさんの人生を変えたのはある決定でした。彼女は一九七〇年代初め、若くして未婚で妊娠し、中絶を求めました。しかし一般の開業医には中絶手術の経験がほとんどなくて、手術はひどい失敗でした。

家に帰り着くと、彼女は激しい腹痛に襲われ、お腹が張り始めました。少したって彼女は出血をしていることを知りました。あわてふためいて、同じ医者のところ駆け込んだのですが、それはほぼ致命的だと言える決定でした。

今52才の「ベロおばさん」は、友人や家族から愛情をこめてそう呼ばれています。彼女は、あの苦痛と、どうやって医者の手から逃れようともがいたかを、今でも鮮明に覚えています。フルネームは使わないでねと言った、シヨートカットで白髪の魅力的な女性のベロさんは、「私はとても痛くて、叫び悲鳴をあげていました。あれは悪魔の仕業だったのです。」と話しました。

その四年前に初めて中絶を経験した、かつて教師であったベロさんが、少しのアスピリンを

手に病院を後にしてからも浮腫と痙攣が続きました。その後、彼女の兄が専門医のところへ彼女を連れて行ってくれました。手術を受け、その後八週間入院することになりましたが、そのことで、中絶によって彼女の子宮には穴が開き、もう二度と妊娠することはできないことが明らかになりました。

それでも、ベロさんは自分を幸運だと思っています。彼女は死なずにすんだのです。今の彼女は、母親のいのちが危険な状態にあり、近代的な装置を使う熟練した専門医によって処置が行なわれるのでなければ、中絶には非常に批判的です。ベロさんの苦しい体験は20年以上も前に起こったことですが、この西アフリカの国の医学研究者たちは、有害で時代遅れの方法を使っている医者の資格を持たない人によって主に行なわれる中絶が今だにはびこっていて、一年に何千人もの女性たちのいのちが犠牲になっていると話しています。

それを経験した女性のほとんどが、人前で話そうとはしませ

ん。ニューヨークを拠点とした「アラン・ダットマツカー協会と「望まない妊娠に反対するナイジェリア運動(CANP)」による共同研究によって最近、ナイジェリアの女性たちが、15才から44才まで女性の千人に対して25人の割合で毎年61万件の中絶をしていることがわかりました。その数字は東ヨーロッパや南アメリカの国々と比べるとまだましですが、西ヨーロッパの国々の数字よりはずっと高く、アメリカ合衆国よりも少し高い割合です。

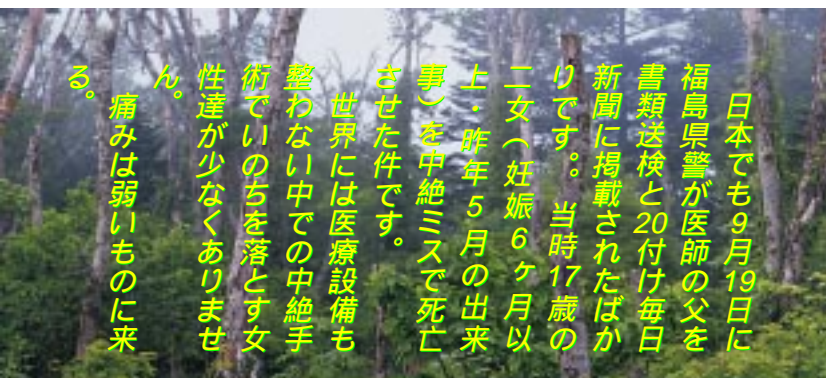
研究者の話によれば、最も驚くことは、アフリカで最も人口の多い国で行なわれる中絶の60%もが、医者の資格をもたない人々や処置の訓練をほとんど、あるいは全く受けていない医者によって、しばしば不衛生な状況で、危険な器具を用いて行なわれていることなのです。その研究によれば、中絶がナイジェリアの10万件の出産のうち千件の母体の死の原因になっているそうです。地元の研究者たちは、10代の少女の死の50%もが、危険な中絶によるものだと確信しています。研究者たちは、西アフ

リカの妊娠可能年令の女性のうち、妊娠した女性の死の8人に1人は中絶が原因だということに注目して、「この問題がナイジェリア特有のものではないと語っています。改革案には、中絶前の女性たちに48時間のカウンセリングをすることを義務付けるといことが含まれています。

ベロおばさんは、中絶を行なう人たちは自分たちが行なっていることを知っていると述べていました。彼女が中絶を受ける決心をしたのは、経済的な心配や羞恥心から行なわれたことでした。ベロさんは、ラゴスの労働者階級の人々が暮らすスルレー地区の家で思い出しながら、「私は若すぎたのです。結婚せずに赤ん坊を産むことは世間体が悪かったのです。私は長女でした。両親は働いていませんでした。私は冷静に考えられる時に、このまま妊娠を続けずに、おなかの赤ちゃんの父親ではなく結婚するにふさわしい人が現われるまで待つことに決めました。」と言いました。彼女は一九七七年に結婚しました。しかし夫に

はそれまでのことを話さずにいて、彼女に子どもができないことがすぐに結婚生活の障害になりました。9年後に二人は別れました。「私は大きな代償を支払ったのです。」とベロおばさんは言いました。

ロサンゼルスタイムズ、
1998年12月29日版



日本でも9月19日に
福島県警が医師の父を
書類送検と20付け毎日
新聞に掲載されたばかり
です。当時17歳の
二女(妊娠6ヶ月以上・
昨年5月の出来事)を中絶ミスで死亡
させた件です。

世界には医療設備も
整わない中での中絶手
術でいのちを落とす女
性達が少なくありません。
痛みは弱いものに来
る。

資 料 紹 介

カラー・パンフレット

「205」

『ノー』という技術

相手の愛情を失わずにNOと言うにはどんな方法があるでしょうか。

例えば、言葉で『NO』というとき、何と言うか五つの例をあげています。

デートのときに性行為を求められ、私たちはNOと言えるでしょうか？言葉だけではなく、他にも二つの『NO』をあらわす方法があります。それぞれ三つの方法についても説明しています。

でも、もし私たちが『NO』と言ったために、相手が行ってしまったら、私たちはどのように考えれば良いでしょうか？その考え方についても述べられています。

私たちが『NO』と言うのは

自分の正体

自分の立場

自分の行動方針を知ることにあります。

私たちが気高い人間であるなら、責任ある行動をとるでしょう。

申込は1種類だけでも、他のカラーパンフレットと組み合わせても自由です。右下の表を参考に！

[511] 赤ちゃん：最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬：ピル

注文：	1 - - - - - 5	1部 = ¥ 100
	6 - - - - - 20	1部 = ¥ 75
フルカラー	21 - - - 999	1部 = ¥ 50
	1000 - - 以上	1部 = ¥ 35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

最新のビデオ

「412」

【ポルノの害毒】

ユースセミナー7 費用：3800円+送料

* 紹介文は2002年7月号6ページ

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文 無料 + 郵送料

【カラー・パンフレット】

[201] 生か死 + 郵送料
 [202] 第二の処女生 + 郵送料
 [203] デート + 郵送料
 [204] どうするの? + 郵送料
 [205] "NO" という技術 + 郵送料
 [206] テイーンの出産コントロール + 郵送料
 [207] パージンの瀬戸際 + 郵送料
 [208] していましたが + 郵送料
 [209] 親権限と「10代の性」 + 郵送料
 [210] 貞節のすすめ + 郵送料
 [211] 中絶行為は女性を解放しない + 郵送料

【ポケット・サイズ】

[301] 若い生命「1セット=カード+人形」30円 + 郵送料
 [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン200円 + 郵送料
 [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス500円 + 郵送料
 [305] 胎児の人権宣言カード30枚=100円 + 郵送料
 [306] ミニソフィア Ace エース(税別)7980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

[401] 沈黙の叫び ... (VHS/Beta)7000 + 郵送料
 [403] ビリングス・メソッド (VHS/Beta)7000 + 郵送料
 [404] いのちーおくりもの (VHS)13000 + 郵送料
 [407] 命美しいもの = one&only (VHS)20000 + 郵送料
 [409] 聞こえる? 天使の鼓動 (VHS)6000 + 郵送料
 [410] ピル先進国・英国からの警告 ... (VHS)15000 + 郵送料
 [411] (コース・セミナー) エイズ時代の性倫理 ... (VHS)3800 + 郵送料
 [500] (本) 生命問題に関する ... (カトリックの教え)2987 + 郵送料
 [501] (本) 自然な家族計画 ... (ビリングス・メソッド)1000 + 郵送料
 [503] (本) プロ・ライフの旅300 + 郵送料
 [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ1200 + 郵送料
 [505] (本) いのちをみつめて500 + 郵送料
 [506] (本) 命あるすべてのものに (マザー・テレサ)660 + 郵送料
 [507] (本) 私の生命を奪わないで2300 + 郵送料
 [508] (本) いのちの福音1500 + 郵送料
 [509] (本) 小さき生命のために1300 + 郵送料
 [511] (本) 赤ちゃん：最初の十ヶ月 ...12ページ ...100 + 郵送料
 [512] 本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて300 + 郵送料
 [513] 本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント500 + 郵送料
 [514] 本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう300 + 郵送料
 [515] (本) 経口避妊薬：ピル100 + 郵送料
 [516] (本) いのちの福音と教育1470 + 郵送料
 [517] (本) フマネ・ヴィテ300 + 郵送料

(本) フマネ・ヴィテ

1 ~ ~ 30 1部 = 250円
 31 ~ ~ 100 1部 = 200円
 101 ~ ~ 以上 1部 = 150円

カラーパンフレット

1 ~ ~ 5 1部 = 35円
 6 ~ ~ 100 1部 = 25円
 101 ~ ~ 500 1部 = 20円
 501 ~ ~ 以上 1部 = 15円

は
組
み
合
わ
せ
自
由
で
す

十代の性

(31)

質問：ガンなどで本当に母体が危険な状態にある時はどのように考えるのでしょうか？

答え：もしあなたが山登りに行き、友達二人が集団からはぐれてしまったとします。捜し歩き、怪我をしている一人を発見します。すぐに治療を施さないと生命にかかわる危険な状態です。あなたの心は大きく揺れます。今この人を連れて戻れば、おそらく瀕死状態だがまだ生きているもう一人を見捨てることになる、さてどうしますか？ 多分あなたは、発見が遅れたもう一人の生存を祈り、最初の一人を助けるでしょう。あなたの決断の結果、もし一人が死に至ったとしてもあなたの良心は痛まないはずで、誰かの死を意図しての行動ではなかったのだから。

母体が危険な時、名医はまず二人の患者の生命を考慮し、両方を助けたいと努めるでしょう。さきほどの例と同じ問題が生じます。母親への治療は胎児を殺すためではなく、母親を救うために行われます。結果として胎児の死がかなりの高確率で予測されたとしても胎児を救おうと最善を尽くします。この点が、初めから赤ちゃんを取り除くのが目的の中絶と大きく異なります。

ビデオ『沈黙の叫び』を見て

正しい知識

私は中絶のビデオを初めて見たんですけど、悲惨としか言いようの無い映像に驚きと共に悲しさが込み上げてきました。特に、胎児がお腹の中で逃げ惑う場面が印象に残りました。

外国では、中絶医のいのちが危険にさらされるほど、中絶についての問題が大きな社会問題になっています。日本ではどうかというと、やはり母体の方に比重が大きいような気がします。胎児はまだ人間ではないというよきな意見もまだ聞かれる現在、中絶についての正しい知識の普及が急がれていると思えました。

● ● ●
H・Mさん(高三生)

平和を破壊するいちばん恐ろしいものは墮胎です。なぜなら、子どもを殺すのはその子の母親自身だからです。…若い女性達は両親を恐れ、世間の人々を恐れるあまりに、墮胎することがよくあります。でも彼女たちを助けなければなりません。(マザー・テレサ)

Q & A

日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

〒780-0062

高知市新本町一丁目7-31

電話/Fax: 088-873-3619

e-mail: prolife@i-kochi.or.jp

http://www.japan-lifeissues.net

For English Speaking People /evening: Tel/Fax: 088-843-0406 Email: nvt56n@ps.inforyoma.or.jp

会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円

一万円 五千元 一千元

無料: 毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さいいのちを大切に育みましょう。

事務所時間:

月一金 10:00 - 17:00

土曜日 休み

日曜日 休み

御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店

口座番号: 0573553

日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」

口座番号: 01660-5-39607

日本プロ・ライフ・ムーブメント

事務所便り

クリスマスおめでとございます。

月日の流れは本当に早いものです。今年もあと残すところ一ヶ月となりました。お元気で過ごしましょうか。お伺い申し上げます。

今年一年間皆様から頂いた御協力、御支援を思い浮かべ感謝致しております。この運動のために寄付を送って下さったり、プロ・ライフ資料を御注文下さったり、事務所の方に電話や郵便で活動の様子を知らせて下さったり、事務所への励ましを伝えて下さったり...距離的には遠く離れていても、皆様に結ばれて近くにいることを感じることもできる日々でした。月一回の教会でのわいわい言いながらのニュース入れ、また、各自のお家でのラベルはりや糊はり、郵便番号の仕分けと記入等、本当に大勢の方々の応援でこの運動は成り立っていると思いません。ありがとうございます。

世界的に不況の風が吹いた今年、先日のインターネットではバザーを開こうとしても商品が集まらなると嘆かれていましたが、このような皆様の善意に100%頼っている団体にとっては、不況は恐ろしいものです。代表者も来年3月には高知大学退職です。事務所の方でも来年はPRで送るニュースの枚数を減らすか、隔月にするかを考えなければならなくなっています。

小さな弱い赤ちゃんとして、貧しい馬屋に生まれられたイエス様、その小さな、自分ではどうにも出来ない弱いいのちを全ての母親が自分の胸に抱くことができるようにいのちの尊さを特にこれからの若者に伝えて行きたいものです。

切手スポンサーをますます多くの方々が引き受けて下さり、この運動をともに頑張ってお守り立てて下さることを願いながら、寒さの中、風邪等お引きになりませんようにとお祈り致します。

(日本プロ・ライフ・ムーブメント)